

# MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第45号 2017年 11月

## もくじ

- モロッコ王国を旅して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・渡辺 正春  
環境教育インストラクターフォローアップ研修会・・・・・・・・・・・・・一條 美智子  
カワセミハウスオープン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中西 由美子  
環境カウンセラー研修（関東地区）でのワークショップ・・・・・・・・・・・・・望月 眞



サハラ砂漠 (撮影: 渡辺正春)



ワルザーザード近くに建設中の太陽光発電所 (google earthより)

## モロッコ王国を旅して

会員 渡辺 正春

2017年4月12日深夜、私はモロッコ最大の都市カサブランカの救急病院集中治療室のベッドで、両腕に点滴用チューブ、血圧測定用のカフ、血中酸素飽和度計、胸には心電図モニター用電極を付けられ様々な不安が頭を過る中で白い天井を眺めていた。

モロッコに来たいと思ったのは、前年に気候変動枠組条約第22回締約国会議 (COP22) 及びパリ協定締約国会議 (CMA1) が開かれた町「マラケシュ」がある事、完成すれば世界最大となる太陽光発電所を建設している事、アフリカ大陸の面積の1/3を占め、アメリカ合衆国とほぼ同じ面積を有する世界最大のサハラ砂漠を背にしているこの国を自分の足で歩いてみたいと思ったからである。

モロッコは立憲君主国で、面積は日本の1.1倍程 (実効支配する西サハラを除く)、人口は約3,000万人強、人口の約1/2が20歳以下の若者の国である。

4月5日に成田を立ち、パリ経由で首都ラバトに入り、青い街シャウエン、旧市街が世界最大の迷宮都市と呼ばれるフェズなどに立ち寄りながら、時計周りでサハラ砂漠の入口エルフードを目指した。フェズを出て暫くバスで走ると、ところどころに少し草が生えた程度の荒涼とした原野に、ノマドと呼ばれる遊牧民が散見されるだけとなった。時々小さな町を抜け、やがてエルフードに到着。エルフードは砂漠の入口の町だが、太古の時代は海底だったそうで、アンモナイトや三葉虫の化石が大量に発掘され、化石発掘ツアーが行われ土産物として売られていた。

ここで四輪駆動車に乗り換え、荒涼とした原野を、砂煙を上げ約1時間走行しサハラ砂漠に面したメルズーカに到着。モロッコに来た最大の目的はサハラ砂漠で満天の星空を眺める事であった。夕食後、カメラと三脚を持ち日干しレンガ造りのホテルの屋上に登ったが、空に満月が輝き、星は殆ど見えなかった。ホテルマンは「月が出てなければ沢山見えるよ。また今度おいで」と言った。翌朝は暗いうちにラクダの背に乗り、砂丘を登ってサハラ砂漠で朝日を眺め、地球は広いと思った。

旅の後半はCOP22が行われたマラケシュやカスバと呼ばれる砂を固めて作った城塞の様な家が並ぶ街道を通り、最終地点カサブランカへ辿り着いた。

翌朝早くホテルを出て空港へ向かう夜、トイレに行くと大量の鮮血が便器を染めた。3年前にモロッコに旅立つ3日前に同様の事が起きていた。老化により大腸の壁が薄くなり飛び出した「憩室」から、何かの拍子に突然出血するらしい。

公用語はアラビア語とフランス語で意思疎通が不十分、一時はどうなるかと思った。8日間の入院中の出来事は語り尽せないが、モロッコ人達の無類の優しさと明るさに助けられ良い思い出を土産に4月21日に無事帰国した。英語が話せる一部の若い医療スタッフ達と雑談したが、モロッコに環境省は未だなく、食や飲料水の安全性も十分ではないが、廃棄物や大気汚染などの環境問題に関して皆が熱く語ってくれた。

## 環境教育インストラクターフォローアップ研修会

10月29日(日) 10:00～15:40 武蔵野公会堂

理事 一條 美智子

環境教育インストラクターフォローアップセミナーは、既受講者が抱える課題へのアドバイス、新たなヒント提供、相互の情報交換を図る等を目的として開催致しました。

準備会の7名(泉 川口 中西 野村 藤井 望月 一條)及びMECC会員が一丸となり、無駄を省いた効率的な講座を実施できました。今回の経験を通しMECCの今後の事業計画の幅が広がったように思います。準備期間が充分とは言えない中、アナウンス、講師決定、既受講者への配信準備及び配信、プログラム作成、テキスト作成、申込受付、ワークショップ準備等々、当日の役割分担ほか効率的に進められた最大の要因は、吉祥寺からのアクセス絶好、設備も充分な武蔵野公会堂が早い時期に会場に決まった事でした。

参加申し込みは広島県・岐阜県・大阪市を含む広域からあり、男性11名、女性3名の計14名。大半が活動の場を既に得ておられ、日々の環境活動をより有効な内容に繋げたい、新たな情報を得たい、他のインストラクターからの情報収集を希望等の明確な目的を持っておられました。しかし当日は台風の影響があり3名欠席、実際の参加者は11名となりました。

午前は稲田理事長開会宣言で開始、基調講演「環境教育の有効な進め方～アクティブ・ラーニング」を徳山大学講師の庄司一也氏に頂きました。インストラクターとしての経験から環境教育のベースを解り易く、

更に今後の活動の場の提案・ご紹介など、多岐に渡る60分の講演でした。続く事例報告は事業者部門から岩淵敏男氏により「自治



徳山大学庄司氏

体イニシアティブプログラム支援活動について」、市民部門からは藤井健史氏により国分寺における「ホテルの夕べ」開催について、活動紹介を頂きました。

午後からはワークショップ。120分の構成で一條が



ワークショップを担当する著者

担当し、今回の目的、進め方、取り組み方他を解説後、参加者を2グループに分割し、事前調査で挙げられた課題から

「環境教育活動の課題と解決」をテーマとしました。各自の活動アピール、自己紹介から入り、グループ

ディスカッションを通してワークシートの完成と発表資料作成に取り組みました。大半が男性で女性2名でしたが活発な意見交換がありました。庄司先生も準備会メンバーと共にファシリテータとしてグループに加わって下さり、流れが大変良く、成果発表および質疑応答も十分行うことができました。川口理事の講評、泉理事の環境教育インストラクター更新手続説明、講座修了証の授与で当日カリキュラムは完了し、望月副理事長の閉会宣言で定刻終了致しました。



ワークショップ発表資料の作成

アンケートでは、・セミナー内容→よく理解できた・プログラム内容→非常に役立った・内容も非常に良かった・大きな意識や行動に繋がった等の回答がほぼ全員の方から頂け、セミナー開催を頻繁にしてほしい等、嬉しいご意見を頂きました。

遠方からご厚意でご尽力頂きました庄司先生、MECC 会員皆様のお力添えに深く感謝いたします。ありがとうございました。



ワークショップ発表

## 「カワセミハウス」オープン

日野市で長らく市や市民の環境活動拠点としていた「環境情報センター（愛称かわせみ館）」は本年3月で閉館し、代わりに黒川清流公園の近くに新しく「カワセミハウス」が建設され、4月にオープンしました。ここは以前、下水処理場で、長い間空き地になっていましたが、半分以上は大型マンションが建ち、残りの土地が日野市の公共施設「カワセミハウス」となりました。

当初から黒川自治会はじめ地域の地区センターとしての機能と環境情報拠点の機能を持たせる構想があり、この施設の設計、デザイン、そして運営方法も市民参加で進められてきました。日野市は伝統的に、市民参加に力を入れています。

私もこの動きに参加し関わってきました。日野市の地区センター管轄の地域協働課と、環境分野管轄の環境保全課が協働して事前勉強会や協議会を運営してきたことは画期的でした。しかし地域の行事を大事にしている自治会と、環境の拠点として市内外に情報発信をしたい環境団体とでは、それぞれの思惑が違い、この施設の使い方や目指すところを共有し、一つの施設を形作っていくことは容易ではなく、

### 理事 中西 由美子

まだまだ課題が残ります。施設名称「カワセミハウス」もこの協議会の中で検討されました。今後さらにコミュニケーションを重ねていく必要があると感じています。

4月1日のオープニングセレモニーではあいにく冷たい雨が降り

りましたが、市内にある実践女子大などの大学や、協議会メンバーを中心に住民も多く訪れました。オープンして半年ほど経ちましたが、環境団体による活用がまださほど活発でないようです。この場所は、黒川清流公園という緑地にも近く、そのビジターセンター的な役割も期待されています。これからもっと盛り上げていくための動きが必要と感じています。MECCでも活用できる機会があればと思います。



# 環境カウンセラー研修（関東地区）でのワークショップ

平成 29 年 10 月 23 日(月)

副理事長 望月 眞

環境省主催による平成 29 年度環境カウンセラー研修（関東地区）が 10 月 23 日に開催された。台風が未明から早朝にかけ関東地方を通過したため、開催と出席者減少が危ぶまれたが、幸い早朝に通過したことで交通機関にそれほどの混乱はなく、参加申込者の 7～8 割が出席した。

研修会は午前に環境省より「地球温暖化対策」について、続いて ESD 活動支援センターより「ファシリテーター技術の向上」についての講演があった。筆者はワークショップ準備で聴講しなかったので報告を割愛する。筆者は午後の 4 つの専門分野別ワークショップ（以下 W.S）のうちテーマ「循環型社会の形成」のコーディネーター役に指名され、特にこの分野が専門ではないが、会社勤務時代や、現在行っている環境マネジメントシステムの審査で培った経験を基に「身近にある 3 R への取り組み」と題した講演と、W.S への課題テーマ投げかけを行った。



ワークショップ開催風景

講演では最初に環境白書などのデータから、国内における廃棄物と資源再利用の状況を説明し、資源有効利用促進法で分別が容易になるよう表示が義務付けられている製品の性状・材質を表すマークを図示（図 1～2）した。



図 1



図 2

参加者にマークの存在と、製品のどこに表示されているかを問いかけたところ、図 1 表示は 8 割、図 2 表示は 1 割、そして図 2 の密閉型蓄電池の認知度は非常に低かった。正答を図 3～5 に示す。読者諸兄はいかがであったろうか。

食品リサイクルも講演内容に加えるよう要望があったため、現状などをデータで示し、併せて当協議会メンバーの林家カレー子さんによる「エコクッキング教室」と山田英夫さんの「防災備蓄食料の食品リサイクル事業」を紹介させていただいた。お二方には紙上を借りて御礼申し上げます。

初めてのコーディネーター役で不安もあったが、参加者アンケートでも概ね評価され、事務局からも高評価を得て、ひとまず安どしている。

なお最近リニューアルした MECC 紹介パンフを持参したところ、途中からの展示にもかかわらず 60 部ほど減っていた。半数の参加者が持ち帰られたらしい、MECC の良い宣伝になったと考えている。



図 3



図 4



図 5

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局  
 〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町 3 - 1 - 1 稲田 昂  
 TEL：042-646-3822  
 ホームページ：http://www.mecc.or.jp/  
 編集者：望月 眞